

3年生の道徳 ～ “正直” について考えました ～

3年生が、中学年の仲間入りしてから2カ月が経ちました。中庭で泣いている児童に優しく話しかけたり、朝1年生の児童を呼びに行き、集合場所に連れて行ったりとお兄さん、お姉さんとしてがんばっています。今回の3年生の道徳の授業では、「正直」について考えました。そして、正直に言うことのよさに気づき、誠実に過ごそうという気持ちを高めることができました。

資料の内容は、次のとおりです。主人公の進一郎が投げたボールがガラスに当たり割れたのですが、謝らず友達と逃げてしまいます。でも進一郎はガラスのことが気になり何回も見に行きます。その後、なかなか謝ることができません。ある日、別のことで必死に自分の過ちを謝罪して回るお姉さんの姿を見て、進一郎の気持ちが変わり、ガラスを割ってしまったことをお母さんに話して、きちんと謝りに行くことができたというお話です。

授業では、「なぜ、進一郎は、窓ガラスを割ったことを言ったのか」について話し合いました。子どもは、「悪いことをしたら、きちんと言わないと心がすっきりしない」「お姉さんが謝っていたから、自分も正直に謝りたい」「信用されなくなるから、正直な方がいい」「謝りに来てくれないと相手の人が悲しい思いをする」などと答えました。友達との意見交流を通して、罪悪感を抱える苦しさ、正直に過ちを認めることのよさについて気づき、明るい心で元気よく生活しようとする気持ちを高めることができました。

今日の心の芽 (授業で大切だと思ったこと・友達の意見で共感できたこと・なるほどなと思ったこと)

- ・ 正直に言った方がいいことやちゃんと言うことが一番大切だと思いました。
- ・ 正直に言うと心がすっきりするという考えがいいと思いました。理由は、正直に言うと自分もいい気持ちになれるし、相手もいい気分になると思ったからです。
- ・ 正直に言うと怒られることもあると思うけど、悪いことをしてしまったことを言うとすっきりするから正直に言うことは、大切だと思いました。



【自分の気持ちをワークシートに書く】



【友達の考えを聞く】